

仕事で使える動画撮影と三脚の話

ビデオ初心者からの脱却に一番近道な方法、それは固定撮影と三脚の利用です

応用技術課 松井 洋泰

三脚なんて、使用するカメラの大きさ(重量)に合った「しっかり」した三脚を使っていれば、それで良いんじゃないの?と考えがちですが、それはあくまでも「写真」や「静止画撮影」の場合に限った話です。

今回は「最初から知っていれば、誰かが教えてくれれば、こんな苦勞をしなかったのに…」という、初心者からステップアップするためのノウハウとして、プロの撮影現場では常識でもあり、すぐに参考になる「動画撮影と三脚」のお話です。

編集を前提としたプロの撮影現場では、固定撮影「フィックス」が基本です。理由は専門書などで、多く解説されていますのでここでは省略しますが、初心者が起こす失敗の多くはカメラをむやみに(左右に、あるいはズームで)動かしてしまうことが原因であると言ってよいでしょう。

※逆に言えば、今回の話のヒントはここにあります。

また動かしながらの撮影は、プロカメラマンならではの効果的な映像が撮れる反面、不慣れな人にとっては予期せぬリスクも多いので、プロでも可能な限り避ける傾向にあります。

「この場面の撮影は、『本当に動かさなければいけない』のか?」皆さんはカメラを動かす前にぜひ、自問自答してください。動かす前と後(例えば「全体」と「アップ」)の2種類のフィックスを撮って置いて編集でつなぐ、というやり方ではダメなのか。つまり後の「編集作業」でどうしてもカバーできない場合にのみ、カメラを動かすという判断をする、実際にはこのぐらいで丁度良いと言えます。



図1
風景全体(下)から赤枠内(左)にズームアップしたい場合、レンズは白点線のように(画面中心に)向かうため、同時に三脚を微妙なパンとティルト(青矢印)によりスムーズに動かす必然性がある。

ら望遠」に拡大ズームしながらの、撮影(その逆も含め)においても、滑らかに思い通りのスピードで動かすことができる三脚が必須となります。

その理由を考えてみましょう。当たり前ですがズームレンズは画面の中心方向にのみ動きます。「この画面で」と決めた広角側と望遠側の画面が両方とも同じ「ど真ん中」なら良いのですが、ほとんどの場合、図1のように必ずズームしながら同時に、左右上下に動かす必然性が出てきます。その結果、思い通りのスピードやタイミングで動かす場合、特に「望遠側」の操作では困難を極め「微妙な上下左右(もしくは斜め)の動き」が、ほんの少しでも「ぎこちなく」なると、途端にそのシーンすべてが「失敗映像」となってしまいます。つまり今回お話しする、動画撮影専用の「理想の三脚」とは、このような本当に微妙な操作でも「滑らかにスムーズに動かすことのできる三脚」とも言えます。

カメラを動かす「必須アイテム」動画用三脚の機能や仕組みとは…静止画用の三脚には無い特徴

業務で撮影に関わる方や、当センターの映像講座の受講生などからは、こんな声を聴くことがあります。

- 「カメラマンの腕の良し悪しは、
使用している三脚の良し悪しでわかる」
- 「せっかく良いカメラを持っていても、
三脚が悪いとその良さが生かせない」
- 「最近、撮影の腕が上がったね」と言われる。
実は三脚を変えただけなのに。(笑)

動画撮影用の三脚(正しい言い方をすれば三脚の「雲台(ヘッド)」部分)には「静止画用」には無い「動かしながら撮影する」ための特別な機能があるのをご存じですか。

手を放しても「ガクッ」とならないバランス機能

カメラが重すぎて上下に動かした後、すぐにストッパーで固定しないと「ガクッ」とカメラが傾いてしまう、そんな経験はありませんか。手を放した角度で「ピタッ」と、いつでも止まるこの「バランス機能」は、続けて動かしたり、画面の微調整が必要な時でも、いちいちストッパーを気にせずそのまま、次の追加の動き出しが可能です。

仕組みとしては、内蔵のパネやカム機構で実現していますが、その時々で使用するカメラやレンズの重さ、大きさに合わせて自由に設定したり、オンオフ設定できるので、1つの三脚を大小複数のカメラで共用する時などにとっても便利です。

逆に使用するカメラはいつも同じか、あるいは大体同じ重さのものを常に使用する場合には、それらの大きさに合った三脚を選択することで、「バランス固定タイプ」の比較的安価な三脚を選ぶ

ここから先は、演出など様々な理由で「どうしても動かしながら撮影しなければならない」場合に必須となる、「失敗しないために必要な機材、動画撮影用の三脚」の話です。

もちろんプロのようなテクニックが無いのであればなおさら「フィックスで撮影しろ、失敗するから動かすな!」これが基本なのですが、例えば、撮りたいものが画面の範囲から外にはみ出してしまい、カメラを動かすことで、カバーする必要があったり、撮影中に、被写体が急に予想と違う立ち位置や動きをしたことで、画面のバランスが悪くなり、画面修正のために録画を止められないまま、仕方なくカメラを動かすケースなどは、どうしても起こり得ます。

また一般的な「三脚を動かしながらの撮影」では、画面を左右(パン)や上下(ティルト)に動かすというイメージですが、実は「広角か

ことができます。またカメラ自体がハンディカムなど軽量(0.5kg～1kg程度)でしたら、バランス機能が無いものでも、雲台のストッパーが微調節できるタイプならば強弱により柔軟に適用することができます。

「サッと」「ジワッと」を実現、ドラッグ機能

「固定する」か「自由に動く」の二者選択しかできない静止画用の三脚と違い、様々な場面で、カメラ方向を上下や左右に動かす際、自分が思っている好きなスピードや感覚でスムーズに動かしたい、そんなことを簡単に実現できるのが、可変式のドラッグ機能です。スポーツ中継で飛んでいくボールを追うために、撮影中すばやく「サッと」動かす場合もあれば、例えば美術品のクローズアップ撮影のように「ジワッと」ゆっくりとしたスピードで動かすこともある…。そんな三脚を上下左右に動かす操作で、動きの重さ「ドラッグ(粘性抵抗)」をこの機能で、シチュエーションに応じた好みの「動かす感覚」に変えることができます。

なおハンディカムなど軽量カメラの場合は、動画撮影用雲台にドラッグ機能が無いことも多いので、ストッパーの微調節でこの機能に近い操作感を得ることになります。

即座に水平出しができる、レベラー機能

静止画撮影と違い、三脚で動画撮影をする時にはカメラの水平確認だけでなく、必ず「三脚の縦軸を地面に対して常に垂直」に保ってください。正しく縦軸がとれていないと、図2のように左右に動かすにつれて「どんどん画面が傾いて」しまいますので注意が必要です。

なお実際に屋外の現場では「平らではない」ところがほとんどです。例えば、撮影場所を30センチ移動しただけで地面の水平はすぐに変わってしまいますので、そのたびに、常に足の長さを調節しなければなりません。

このような場面で、簡単に操作一つで修正できるのが、レベラー機能です。三脚に「ボールレベラー」などがあれば屋外でも効率よく撮影することができます。また三脚の雲台と脚部が分離できるものならば、その間に別売のレベラーを追加することで同様の効果が得られます。

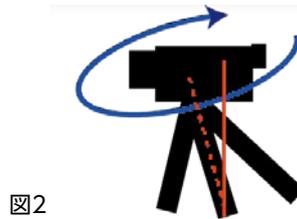


図2

参考までに過去の経験から動画用三脚の価格は、使用するカメラ本体の価格の1/3ぐらいをあらかじめ想定しておくことで大体丁度よいのではと思います。30万円以上のカメラなら10万円程度以上の三脚、5万円のカメラなら1～2万円程度は…などがおおよその目安でしょうか。

もしも今後、動画撮影用の機材の購入や更新を考えられる場合には、三脚についてもぜひ吟味してください。

ここまで動画撮影用の便利な機能をご紹介しましたが、これらは三脚の価格帯により一部が省略されていますので「機能がどこまで必要か」については状況に応じた選択をしてください。また撮影時の「使用感覚」はカメラによって向き不向きが発生し、操作感も変化しますので、購入の際には「必ず実際に三脚の現物を、自分の手で操作した感覚で体感」してから良否を判断してください。

「三脚にそんなにお金をかけても…」と言われる方もおられますが、正直それは動画撮影には当てはまりません。

また「三脚の寿命はカメラよりも長い」のでカメラの仕様や規格が変わっても(4:3の頃から、ハイビジョンになっても、4Kになっても)良い三脚はずっと使えます。

●お問い合わせ先 / 京都府中小企業技術センター 応用技術課 デザイン担当 TEL: 075-315-8634 E-mail: design@kptc.jp

創業支援融資
お取扱中

まもなく創業される方・創業まもない方へ

『ここから、はじまる』

京信は「新しい発想で
自己実現を図る人」を応援します!!

第二創業まで
ご相談ください

テーマ

創業支援について

- おせいみち 運転資金・設備資金
- ご融資金額 原則として所要資金の80%以内
- ご融資期間 当座貸越は、融資後1年目の応答日以降に迎える決算日の4ヵ月後まで
(最短約16ヵ月、最長約28ヵ月)
証書貸付は、原則として10年以内
- ご返済方式 当座貸越は、元金任意返済方式
証書貸付は、元金均等分割返済方式
- ご融資利率 当座貸越 年1.20% (固定金利)
証書貸付 年2.00% (変動金利)

* 証書貸付は直前の決算の営業利益(注1)が当初の「事業計画書」通り達成されている場合は下記の通りといたします。
(注1) 個人の場合は青色申告書の経費差引金額とします。

返済期間 7年以内 年1.20% (変動金利)
返済期間 7年超 年1.50% (変動金利)

* 証書貸付のご融資利率は金利情勢の変化により変更することがあります。表示の利率は、2019年3月31日現在の当金庫短期プライムレート(年2.8%)を基準としたものです。ご融資後の融資利率は当金庫短期プライムレートに連動する変動金利です。

- 保 証 人 『経営者保証に関するガイドライン』に基づいた対応とさせていただきます。
- 担 保 原則不要。
ただし土地建物を購入する場合等は担保設定が必要です。

■お申込時に必要な書類等
●当金庫所定の事業計画書および申込書類
■審査の結果、融資をお断りすることがあります。
■わくわくはお近くの店舗までお問い合わせください。

2019年3月31日現在

京信創業支援融資制度『ここから、はじまる』

■ご利用いただける方

当金庫の営業エリア内で、新たに事業を始める方、または事業開始後税務申告を2期終えていない方

■商品概要

お客様の事業の進捗状況に合わせて、当初は当座貸越、その後事業の進展に伴い証書貸付で、創業を支援する融資商品をご用意いたしました。

京都信用金庫